

案内

センター企画講座

1 高岡の女性リーダーに学ぶ (女性史講座)

～将来の不安を和らげ、笑顔で暮らせる高岡を目指して～

世界各国の2019年の「ジェンダー・ギャップ指数」を見ると、日本は153カ国中過去最低の121位、政治分野は144位です。政治への女性参画の歴史を振り返りながら、これからの高岡を一緒に考えてみませんか。

日時：令和3年1月15日(金) 18:30~20:00
講師：尾崎 憲子さん(高岡市社会福祉協議会会長)

2 女性のためのアサーティブネス・トレーニング講座

アサーティブとは、言いたいことを我慢せず相手も大切にしながら、自分の気持ちをありのままに相手に伝える自己表現のことです。女性のためのアサーティブネス・トレーニング講座で、楽しみながら率直に相手に伝える方法を学んでみませんか。

日時：令和3年1月24日(日) 10:00~15:30
講師：一般社団法人 ウィメンズカウンセリング富山

※ 1、2いずれも

【場所】男女平等推進センター会議室(ウイング・ウイング高岡6階)

【申込・問合せ先】男女平等推進センター

電話：20-1810、FAX：20-1815、メール：gec@city.takaoka.lg.jp

センター・登録団体等の活動や講座予定

令和2年12月

- 1日(火) E ネット定例会
6日(日) 市民企画講座(男性介護者の会「みやび」)
13日(日) 市民企画講座(ふぁん・ふぁしい・café 第2回)
18日(金) 話スペース「ぼこ あ ぼこ」
22日(火) 「ありて」第7回編集会議

令和3年1月

- 12日(火) E ネット定例会
15日(金) センター企画(女性史講座)
17日(日) 市民企画講座(ふぁん・ふぁしい・café 第3回)
22日(金) 話スペース「ぼこ あ ぼこ」
24日(日) センター企画(女性のためのアサーティブネス・トレーニング講座)

相談室(配偶者暴力相談支援センター)

専任相談員が、DVや生き方、夫婦の問題等の相談を受けています。 ※面接相談は要予約

相談時間 月・火・水・金 9:30~16:30
木 14:00~20:00

休業日 土曜・日曜・祝日・毎月第4月曜・年末年始

相談室専用電話 (0766) 20-1811



高岡市男女平等推進センター

休館日 毎月第4月曜日、12月29日~翌年1月3日
所在地 〒933-0023 富山県高岡市末広町1-7(ウイング・ウイング高岡6階)
問合せ先 TEL:(0766)20-1810 FAX:(0766)20-1815 E-mail: gec@city.takaoka.lg.jp
HP: http://www.city.takaoka.toyama.jp/gec/kurashi/kyodosankaku/center/index.html



高岡市は男女平等・共同参画都市を宣言しています。「認めあい 支えあい 共に輝く ひと と まち」をみんなで目指しましょう。

高岡市男女平等推進センターだより

ありて mate

2020, 12, 1 No.90

男女平等・共同参画推進の私の思い



高岡市男女平等推進センターネットワーク会議メンバー
男女平等 EXPO 高岡 2020 実行委員会委員長

矢竹 有至さん

最初「男女平等・共同参画社会の推進」の趣旨は理解しましたが言葉に違和感がありました。「平等」は封建時代の身分制度を連想させます。戦後生まれで団塊の世代と呼ばれる私達でさえ「男女平等」は「男女同権」と共に子どもの時から教わり当たり前のことと思っています。なのに戦後75年と半世紀以上経つ今あえて言う必要がありますか？と。

また「参画」とは一体何? 「参画」とは自ら進んで企画・立案等意思決定の場に加わることです。これは非常に重要なことです。そう言う「参画するしないは本人の自由でしょう。今家は忙しくてそんな余裕はないです。」という返事が返ってくるかも知れません。しかし、少子高齢化が進む中で避けては通れません。例えば自然災害が起こって避難所へ行った場合、現状では混乱が予想されます。男女が共同で避難所の運営にあたるのが不可欠になります。行政はスリム化し人手不足、十分な対応を期待するのが無理となるでしょう。

日頃から地域の男女が共同参画し、訓練しておく必要があります。災害はいつやってくるか予想が付きません。起こってからでは遅い。「本人の自由」が結果的に本人や家族の不都合または苦痛にならないように備える必要があるのです。

女性の活躍できる社会の実現については、今女性の活躍はめざましい。最近、北海道警察で初の女性捜査一課長、海上自衛隊で初の女性潜水艦乗務員の誕生が報じられました。他にも、女性溶接士や女性ジョッキーの活躍、女性宇宙飛行士。また、企業は、成長持続のために女性の経営参加が必須としています。

新型コロナ、自然災害多発等の人々に立ちはだかる難敵と社会システムのデジタル化、ICT(通信技術を利用したコミュニケーション)化という変革を乗り越えるため、男女の性偏見(ジェンダーバイアス)を無くし、男女が知恵を出し合い協力して住みやすい地域社会を築きましょう。

